

梅鶯仏教壮年

第51号
2007年
10月14日



金沢別院本堂



山門



長屋輪番と

9月23日朝、彼岸法要が勤められていた金沢別院の「朝の勤行」にお参りし、参加者7人は声高らかに正信偈をお勤め致しました。

1337年(延元4年)開創という由緒を有する金沢別院の本堂は、総檜(けやき)造りで、横の三屋根が加賀文化の豊熟さを彷彿させていました。また、内陣は赤味を帯びた金箔がふんだんに荘厳され、絢爛さの中に重厚さがあり、思わず引き込まれました。それもそのはず、金沢は金箔の生産率が日本の90%以上なのです。お勤めの後、長屋善洋輪番様から、私達梅鶯仏教壮年が本堂で紹介され、その後、書院等の案内もして頂きました。観光、夜の親睦会と、とても有意義で楽しい、二日間の親睦旅行でありました。



本堂三屋根

金沢別院
彼岸法要参拝

北村政民



庭の金木犀が芳香で秋を告げる候となりました。

去る9月23日金沢別院参拝のご縁をいただきました。

160年前に建築されたといわれておりますご本堂にお参りをさせて頂き、初めて経験する深い感動を覚えたのでございます。法輪寺先代住職様も勤務されたと聞いております別院本堂で掌を合わせたとき、浄土真宗のみ教えを継承させていただいた先祖様に対する感謝の気持ちと、現在のありがたい心境を呼び返したのであります。

日頃の生活の中で悩み、迷い、苦しんでいる私達は、これが煩惱だと云えばそれまでですが、阿弥陀様のみ教えを今一度味わい、更に精進することの機会を得ましたことを、ご報告申し上げます。



兼六園で

告申し上げます。

いま出会った「今日」というこの日は、過去にも出会ったことはなく、未来にも出会うことのない、いま、はじめて出会う「今日」である。一期一会の今日である。希望にもあれば、感謝にみちて、生きがいを感じ、意義をさとり、心ゆたかな「今日」たらしめよう。すぐに別れる「今日」なれば「出会ってよかった今日」たらしめよう。

寺川幽響先生

梅鶯仏教壮年報恩講

11月17日(土)
夕6時より

法輪寺報恩講

12月8日(土)

寺川幽芳先生をご講師にお迎え致します。仏社会員の皆様もお参り下さい。

題材法話

※前号からのつづき

闇は、闇のまま、光によつて明るい世界へと変えられるように、煩惱にまみれた私達は、煩惱の身のまま、阿弥陀さまの本願の光に包み込まれて、光の世界へと変えられるのでした。

○等しく救われる世界

「凡夫も聖者も、五逆といふ罪を犯した人も、仏法を阿弥陀さまの本願海に入れば、ちようど、あらゆる川の水が海に流れ入つて、すべての塩味になるように、すべてが等しく救われるので「す」ということで、これも真に味わい深い内容であります。

「凡夫も聖者も」とあります。凡夫（ぼんぶ）とは、まさに私達のことですが、親鸞聖人は一念多念文意という書物の中で、
「凡夫というは、



無明煩惱われらがみにみちて、欲もおおく、いかに・はらたち・おね・ひまなく、たむころおほくひまなく、して、臨終の一念にいたるまでとどまらず、きえず、たえず」と、それこそ痛烈に私たちの現実の姿を示しておられます。そして「五逆」「謗法」といいますのも、観無量寿経アジャセとかダイバダツタなどの重い罪を犯した人達のことなのですが、実はこの人達も本当のところは私達の姿を写して出しているのです。けれどこれほど救われようのない私達であつても、親がどの子も分け隔てなく愛するように、みんな平等に救われていくというので川といつてもいろんな川があります。水源や流域によつて、硬質も軟質もあります。名水と讃えられる水も、鼻をつまみたくなるようなどぶ川



もありました。なけれど、そんな水質の異に入つてしまえば、同じ塩味の海水となるように、凡夫でも聖者でも、分け隔てなく、平等に救われていくのだと喜ばれるのです。○私こそが阿弥陀さまの目当てたたとえば、船が難破して多くの人が溺れていきます。溺れていける人を救います。溺れ当人、金持ちであろうと貧乏人であろうと、賢い人も愚かな人も、男でも女でも、大人でも子供でも、みんな等しく救助しなければなりません。けれど現実問題として、いつぺんに助けることは出来ないうか。どういう人から救うでしょう。いろいろな考えられます。が、まずは、今まさに溺れかけている人こそ救わなければならぬのではないうか。元気に泳いでいる人や、物につかまっている人よりも、水



に沈みかかつて手を差し伸べています。こそ、早く救おうとします。逆に、救助に気が付かない人や、救助する人を疑つて、自力で岸まで泳ぎ着こうとする人などは、助けることが難しいでしょう。阿弥陀様のご本願による救いも同じ事が言えないでしょうか。阿弥陀様は全ての者を等しく救おうと誓われていますが、その中でも特に、今まさに地獄に堕ちようとして阿弥陀さまのご本願に気づかせて頂き、お念仏を称えさせて頂く身となつたこの私こそが、阿弥陀様の救いの第一の目当てなのです。親鸞聖人は「弥陀の五劫思惟の願をよくよく案ずれば、ひとえに親鸞一人がためなりけり」と喜ばれています。つまり「凡夫も聖者も同じように救われる」と詠まれています。実は、凡夫であるからこそ間違いなく救われるのだと、その喜びを詠まれているのです。